

令和 2 年 5 月 29 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02323

研究課題名(和文) イタリア新前衛派の軌跡と展開に関する総合的研究

研究課題名(英文) A comprehensive study on the marks and development of Italian Neo-Avant-Garde

研究代表者

土肥 秀行 (Doi, Hideyuki)

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：40334271

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は、国内においては1960年代イタリアの前衛の存在自体を、主要作家群の文脈化をとおして明示的に抽出しえたこと、国外、イタリアにおいては、「新前衛派」のもつヨーロッパ的意義を実例をもとに明らかにしえたことにある。そうして以下の3点の課題に取り組み得たことにある。すなわち、「イタリア新前衛派の発見と再考」(日伊両国の関連学界全般にとり焦点の課題)、「比較文化論的研究の実践」(詩、小説、理論、美術、音楽、雑誌メディアといった分析対象の横断性)、「モダニズム研究の再構築」(20世紀全体を包括する視座を附与する作業)である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義や社会的意義は、究極的には「前衛」というキーワードにもとづいて再編成されるイタリア20世紀観、さらには新たな文化情勢を踏まえたヨーロッパ俯瞰図の提案にある。その意図は、総体としてのヨーロッパ地域文化研究の一角に、定点としての「イタリア」を「前衛」を軸に位置付けることにある。そして従来の前衛観ひいては現代ヨーロッパの芸術における「文化的根の複数性」(M. Cacciari)を保証する手段となると確信している。

研究成果の概要(英文)：The result of this research ("A comprehensive study on the marks and development of Italian Neo-Avant-Garde") is that the existence of the Avant-Garde in Italy in the 1960s was explicitly extracted through the contextualization of the main writers. By doing so, we were able to tackle the following three issues. That is, "Discovery and reconsideration of the Italian Neo-Avant-Garde" (problematic issue for all related academic circles in Japan and Italy), "Practice of comparative cultural studies" (poetry, novel, literary theory, art, music, magazine media, analysis cross-cutting of objects) and "Reconstruction of Modernism research" (work to provide a perspective that covers the entire 20th century).

研究分野：イタリア文学

キーワード：新前衛派 モダニズム 前衛 未来派

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

1990年代以降の Renato Barilli による一連の批評的著作にも関わらず、イタリアのアカデミズムにおいて「新前衛派」の重要性は未だ正しく認知されていない。その一因を、**実作品の刊行及び校訂作業**の不徹底に求められよう。それでも近年、Feltrinelli 社と Manni 社が Sanguineti の一連作を再刊、詩アンソロジーや短編集の編纂に努め、状況好転の兆しはみえる。

さらには Gruppo 63 誕生 40 周年 (2003 年) と半世紀 (2013 年) の節目が大きなチャンスとなり、「最新詩人たち」に含まれる E. Pagliarani の全詩集 (2006 年、A. Cortellessa 監修) にはじまり、A. Porta の全詩集 (2009 年、N. Lorenzini 監修) までもが出版されるなど、近年イタリアの「**新前衛派**」をめぐる状況は活況を呈しつつある。

日本国内においては 1960 年代の前衛といえはフランスにおけるさまざまな現象に関して研究がなされてきたというのが現状である。加えて、I. Calvino や U. Eco は知られていても、この 20 世紀イタリア文学を代表するふたりが「前衛」の文脈において語られることは皆無に等しい。

本研究は、こうした偏った国内の研究と受容の現状を是正補完することに繋がるであろう。またイタリアにおいても、ヨーロッパ全体を視野におさめることで、多角的かつ広角的な、まさに**前衛にふさわしい幅広い批評的地平**の獲得という、新たな視座を新前衛派研究に提供しうる。

2. 研究の目的

日本においてはいまだ手つかずの状態にある、1960 年代イタリアの総合的な芸術運動「**新前衛派**」の**全体像**を、誕生から半世紀を過ぎた節目に、明らかにすることが目的である。本研究は「新前衛派」が果たした文学から美術に及ぶ広範な共時的展開と、その後の芸術に与えた多大な通時的影響を確認するとともに、その**汎ヨーロッパ的な波及効果**についても明らかにする。

「新前衛派」は、歴史化の過程にあるとはいえ、イタリア本国においても徹底した研究が為されてはならず、いまだ多くの発見の可能性がある。なかでも、「新前衛」の、歴史的な前衛である「**未来派**」への**直結**を経て、モダニズム運動のひとつの源流をたどる試みが為せる。そうして 20 世紀思想全体の文脈化へとつながる斬新な視点を拓いていく。

3. 研究の方法

(1) 一次資料収集 (入手困難な書籍、特に初版本、初出雑誌の複写[手稿、音源等も含む]) を通し、(2) 研究者ネットワーク拡充 (既に親交のあるポーロニヤ大学を在外ハブ拠点とし国内外に拡充) に努め、(3) 当事者・関係者の証言収集 (Barilli, Balestrini 等へのインタビュー) を行い (4) SNS (研究成果の社会的還元と研究者間の情報交換の活性化を目的に、HP を「イタリア新前衛派アーカイブ」としても機能させつつ、積極的公開を恒常的に実施) を活用し、(5) ワークショップおよび国際シンポジウムの開催 (立命館大学、東京外国語大学、ローマ大学サピエンツァ、ポーロニヤ大学) (6) 学術専門誌・文芸誌 («立命館国際言語文化」や「東京外国語大学 総合文化研究」やローマ大学サピエンツァ Avanguardia およびその他 Online Journal) 上での成果発表を行い、(7) 上記研究集会のプロシーディングと成果論集のオンライン公開をめざす。

4. 研究成果

研究代表者の土肥は、ローマを研究拠点としつつ、各地で研究活動を行った。国立近現代図書館および国立中央図書館にて 20 世紀初頭と第一次大戦時の文化状況についての書籍、雑誌論文を参照しつつ、数本の研究発表と論考を執筆する。市立マルコーニ図書館の協力を得て、現代詩人ペンナ、カプローニ、ダルバの蔵書と書き込みについて調査を行う。研究協力者であるローマ大学チェチリア・ベッコ講師とともに、2018 年 2 月開催の現代イタリア文学セミナー (歴史的な前衛が中心) に向けた共同研究を進める。ローマ大学「20 世紀文庫」所蔵の本・雑誌、資料を利用し、文献学的アプローチを試みる研究である。このセミナーでは、土肥のほか、研究分担者の和田氏と石田氏も発表を行った。ローマ大学フランコ・ディンティノ教授とともに、イタリア外におけるレオパルディ受容について調査し、2018 年 2 月開催のレオパルディ研究会にて発表する。加えて、ローマ外でも、研究活動を行った。2018 年 5 月にはナポリ東洋大学にて研究分担者・和田氏と土肥が会合する。同 7 月にはフォッジャ大学にて、招待により土肥が 19 世紀末の日伊文化・文学交流について講演する。同 9 月にはアルゼンチンのトゥクマン大学でのアルゼンチン・イタリア文学会にて、20 世紀詩についての招待講演を行う。同 11 月にはピサ大学でのパゾリーニ『石油』国際シンポジウムで『石油』の翻訳法について発表する。同 12 月には京都外国語大学における関西イタリア学研究会で、「作家の本棚」について発表する。2018 年 2 月レツジョ・カラブリア外国人大学での日本 = イタリア研究者シンポジウムでは、土肥のほか、研究分担者の和田氏と石田氏も発表を行った。

研究計画に掲げた目標到達の道しるべとなる、書物・論文が量と質ともに充実した 2 年目となった。土肥寄稿の論集が三種、言語的にもバラエティある組み合わせとなった (和、伊、伊西)。それらがテーマ的に共通点をもつとすれば、20 世紀文学および芸術を貫く問題としての規範の桎梏とそこから逸脱である。この二要素のデュアリズムにとって、1920 年代、1960 年代と度々

契機が訪れた。2018年5月に口頭発表し、その後紀要論文として扱ったテーマ「風景の不在」にしても、一次大戦後の1920年代的な美のゆらぎに注目していた。不在と実在のあいだにあって、脱・唯美的な世界観を論じた論文となった（『立命館言語文化研究』30巻4号における特集「イタリアの都市における文化的表象」に含まれる）。つまるところ一次大戦前から活動する前衛第一世代と「前衛派」が、「参戦派」として活動を続けるなかで抱いた世界観である。このテーマは、研究代表者において、境界の世界・人という新たな分野への関心につながり、一次大戦の浮囂の世界史という今後発展させるべき課題を生んだ。研究分担者の和田氏は、二次大戦後の小説の危機により深く関わっていく。歴史とお伽噺に範をとる戦後のリアリズム文学から、小説そのものの否定につながる1970年代の実験まで、小説家イタロ・カルヴィーノの作品群を軸としつつ、小説の歴史そのものの再検討へとむかう。ローマ大学やミラノ大学の専門家との連携を進めている。同じく分担者の石田氏は、歴史的な前衛における身体性（笑い）と映像表現をキーワードに、さらなる研究の深化を図った。研究分担者・巖谷氏は、1930年代のフォンターナ芸術に（ファシズム的）スペクタクル性を読み込み、新たな前衛芸術研究の地平を拓いている。共同運営体制を敷く研究において、当初の予想以上にそれぞれが新しい展開をみせる一年となった。

最終年度である2019年度は、国際ワークショップおよび国際シンポジウムの開催を研究活動の目玉とした。ローマ大学講師チェチリア・ベッロ氏をゲストとして迎え、6/23国際シンポジウム「資料館における前衛研究 主題と方法、一次資料を使ったイタリア文学研究」開催（於：立命館大学、ベッロ氏、土肥、石田が発表）6/27国際ワークショップ「未来派と女性—アヴァンギャルド運動初期の偏見と修正、理論と神話」（於：東京外国語大学、ベッロ氏が講演、和田、土肥、小久保真理恵氏と討論）を実施し、発表原稿と討論内容は、研究紀要「立命館言語文化研究」に掲載される（2020年度第32巻3号）。ベッロ氏の文献学とテキスト校閲理論から現代美術批評までの広い知見の反映された論稿となっている。続いて、12月にはローマ大学准教授ラウラ・ディ・ニコラ氏をゲストに、12/4国際ミニシンポジウム「『アメリカ講義』と（不）可能なる図書館」（於：立命館大学、ディ・ニコラ氏が基調講演、土肥と和田がコメント）を開催し、イタロ・カルヴィーノが唱えた現代文学を読み解くキーワードである「軽さ」、「速さ」、「正確さ」、「視覚性」、「多様性」のそれぞれに分割された1985年の遺稿『アメリカ講義』を、有機的に、自伝を軸に、読み解く新鮮な場となった。討論での指摘にあったとおり、自伝的（個別）でありながらも（普遍）世界文学へとむかうテクストに、いまいちど立ち返る意義に気づかされた。発表原稿と討議内容は研究紀要「立命館言語文化研究」上に2020年度内に掲載する（2020年度第32巻3号）。6月と12月のイタリア語原稿は、2018年2月ローマでの国際シンポジウムの発表原稿と合わせてイタリアで出版する予定である。これをもって当研究の総決算としたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 土肥秀行	4. 巻 30巻3号
2. 論文標題 “L' Italia, un Giappone in Europa”: le immagini sovrapposte nel boom dell' Italia del tardo periodo Meiji	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館言語文化研究	6. 最初と最後の頁 105-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hideyuki Doi	4. 巻 17-18
2. 論文標題 Il Pasolini friulano tradotto in giapponese	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Il parlar franco	6. 最初と最後の頁 131-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 土肥秀行	4. 巻 30巻4号
2. 論文標題 風景の不在と「写生」の誕生	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館言語文化研究	6. 最初と最後の頁 57-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石田聖子	4. 巻 30巻3号
2. 論文標題 1910年代イタリア映画のなかの未来派映画	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館言語文化研究	6. 最初と最後の頁 53-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mutsuki Iwaya	4. 巻 1
2. 論文標題 Il "volo" negli anni trenta e cinquanta fra politica e arte attraverso l'esperienza di Lucio Fontana	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 El espectáculo en la lengua y la literatura italianas	6. 最初と最後の頁 139-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hideyuki Doi	4. 巻 1
2. 論文標題 Marinetti 1926: le Misurazioni come nuova critica teatrale e il primo viaggio in Sud America	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 El espectáculo en la lengua y la literatura italianas	6. 最初と最後の頁 122-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hideyuki Doi	4. 巻 1
2. 論文標題 Il paradosso del mare nella poesia contemporanea italiana e giapponese	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 El mar en la lengua y la literatura italianas	6. 最初と最後の頁 26-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田聖子	4. 巻 24
2. 論文標題 笑いと創造 ダダ、シュルレアリスム、未来派とパラッツェスキ「反苦悩」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 笑い学研究	6. 最初と最後の頁 3-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.18991/warai.24.0_3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hideyuki DOI	4. 巻 24
2. 論文標題 Leopardi pessimista “ensei” : un secolo di recezione in Giappone	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 RILL Nueva Epoca	6. 最初と最後の頁 128-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 石田聖子	4. 巻 69
2. 論文標題 ピノッキオの身体をめぐる ピノッキアーテ と視覚文化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 イタリア学会誌	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石田聖子	4. 巻 26
2. 論文標題 海外研究動向	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 笑い学研究	6. 最初と最後の頁 91-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 巖谷睦月	4. 巻 32巻2号
2. 論文標題 1930年代と1950年代の政治と芸術をめぐる「飛行」の表現について ルー チョ・フォンターナの経験から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館言語文化研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計38件（うち招待講演 19件 / うち国際学会 11件）

1. 発表者名 土肥秀行
2. 発表標題 風景の不在と「写生」の誕生
3. 学会等名 立命館大学国際言語文化研究所主催国際シンポジウム「イタリアの都市の表象」（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 古田耕史、土肥秀行
2. 発表標題 詩人レオバルディと出会う ペシミズムと《無限》、日本での受容
3. 学会等名 イタリア文化会館東京主催講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hideyuki Doi
2. 発表標題 Marinetti 1926: le Misurazioni come nuova critica teatrale e il primo viaggio in Sud America
3. 学会等名 ADILLI #34（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 土肥秀行
2. 発表標題 マリネッティの“規範回帰” 国際的展開と演劇批評
3. 学会等名 イタリア言語・文化研究会157回例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 土肥秀行
2. 発表標題 パゾリーニにおける文学と映画の円環
3. 学会等名 イタリア文化会館大阪主催連続セミナー（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hideyuki Doi
2. 発表標題 Mirai / Shorai. A proposito del mirai, tutto cio' che non ci arriva ancora (o forse e' gia' arrivato)
3. 学会等名 Istituto Giapponese di Cultura in Roma
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Karin Fleischanderl, Shagha Sharafi, Gatan Martins de Oliveira, Tadahiko Wada
2. 発表標題 Altri osservatori. I traduttori di Tabucchi
3. 学会等名 Scrivere le emozioni del tempo. Galassia Tabucchi - Colloquio Internazionale（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tadahiko Wada
2. 発表標題 L'origine delle poesie. Ubicazione di voci. Da una poesia alla poesia
3. 学会等名 Poesia italiana del Novecento, Universita' di Bologna（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tadahiko Wada
2. 発表標題 Su Il geografo e il viaggiatore su Calvino e Celati di Massimo Rizzante
3. 学会等名 Spazio archeologico Palazzo Lodron di Trento (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tawada Yoko, Giorgio Amitrano, Tadahiko Wada
2. 発表標題 Tra Tokyo e Berlino
3. 学会等名 66 Trento film festival (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tadahiko Wada
2. 発表標題 Su Iro Iro di Giorgio Amitrano
3. 学会等名 Casa delle letterature, Roma (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tadahiko Wada
2. 発表標題 Uchida Hyakken e Antonio Tabucchi. Voci dell'aldila'
3. 学会等名 Universita' Orientale di Napoli (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tadahiko Wada
2. 発表標題 La giornata di alcuni scrutatori. Osservazioni su Calvino in giapponese
3. 学会等名 Universita' La Sapienza di Roma (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 和田忠彦
2. 発表標題 不均衡の翻訳史
3. 学会等名 東京外国語大学総合文化研究所主催シンポジウム「欧米文学からみる日本翻訳史」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mutsuki Iwaya
2. 発表標題 Il "volto" negli anni trenta e cinquanta fra politica e arte attraverso l'esperienza di Lucio Fontana
3. 学会等名 ADILLI #34 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 巖谷睦月
2. 発表標題 1934年のイタリア航空博覧会開催式典における演出計画 そのルーチョ・フォンターナへの影響
3. 学会等名 イタリア学会第66回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 巖谷睦月
2. 発表標題 ルーチョ・フォンターナのネオン作品 1937年のパリ万博の影響の可能性
3. 学会等名 イタリア近現代史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石田聖子
2. 発表標題 イタリア映画の身体表象 1910年代を中心に
3. 学会等名 イタリア言語・文化研究会第153回例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hideyuki Doi
2. 発表標題 Il paradosso del mare nella poesia contemporanea italiana e giapponese “ イタリアと日本の現代詩における海のパラドクス ” (伊語)
3. 学会等名 ADILLIアルゼンチン・イタリア文学語学会 第33回国際大会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hideyuki Doi
2. 発表標題 Sekiyu, Petrolio. Criteri per la resa in giapponese 『石油』、 『ペトロリオ』、邦訳方針(伊語)
3. 学会等名 Petrolio 25 anni dopo “ 『石油』 発刊から25年を記念して ” ピサ高等師範学校(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 土肥秀行
2. 発表標題 ローマと文学 「作家の本棚」
3. 学会等名 関西イタリア学研究会 京都外国語大学
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hideyuki Doi
2. 発表標題 Gli avanguardisti non allineati al movimento di Marinetti: Lionello Fiumi, Auro d'Alba, Francesco Meriano " マリネッティの運動に与さない前衛作家たち リオネッロ・フィウーミ、アウロ・アルバ、フランチェスコ・メリアーノ" (伊語)
3. 学会等名 "Noi si sta per il Novecento". Prima giornata di studio e confronto tra Italia e Giappone Ricerche negli archivi letterari italiani 「われわれは20世紀文学のためにいる」資料館での研究(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tadahiko Wada
2. 発表標題 Il quadro della diffusione del Barone rampante nel mondo
3. 学会等名 Cosimo, il Barone (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tadahiko Wada
2. 発表標題 Fascismo fra sottospecie, discendenza e compimento del modernismo
3. 学会等名 "Noi si sta per il Novecento". Prima giornata di studio e confronto tra Italia e Giappone Ricerche negli archivi letterari italiani (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石田聖子
2. 発表標題 変容する身体の表象 視覚文化のなかのピノッキオ
3. 学会等名 イタリア学会 第65回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Satoko Ishida
2. 発表標題 Zavattini e i media: dalla letteratura al cinema
3. 学会等名 "Noi si sta per il Novecento". Prima giornata di studio e confronto tra Italia e Giappone Ricerche negli archivi letterari italiani
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Satoko Ishida
2. 発表標題 Pinocchio nella cultura visuale
3. 学会等名 La via del sol levante. Il Giappone racconta l'Italia
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 土肥秀行
2. 発表標題 マルコのはてしない旅 イタリアにおける『クオーレ』とマルコの物語評
3. 学会等名 比較文学学会主催シンポジウム「アニメーションの東西交流～ハイジとマルコの物語」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hideyuki DOI
2. 発表標題 Il ritorno all'ordine nel Marinetti degli anni Venti
3. 学会等名 Seconda giornata di studio e confronto tra Italia e Giappone: ricerche negli archivi letterari italiani (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 土肥秀行
2. 発表標題 第一次大戦期の日本におけるイタリア人捕虜
3. 学会等名 イタリア近現代史研究会第337回例会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tadahiko WADA
2. 発表標題 Le convergenze itineranti delle città invisibili nel paesaggio delle parole. Calvino nel paesaggio delle parole
3. 学会等名 Dipartimento di Italianistica Università di Roma "Sapienza" (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tadahiko WADA
2. 発表標題 Dove va la fantasia? - I bambini di Cuore ovvero due storie dei destini incrociati, Mondi piccolissimi. La scuola e l'università nella letteratura italiana del Novecento
3. 学会等名 Scuola Superiore Università di Bologna (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tadahiko WADA
2. 発表標題 Collodi e De Amicis in Giappone - I bambini ideali di Pinocchio e Cuore a cavallo tra le due culture
3. 学会等名 Universita' di Napoli "Orientale" (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tadahiko WADA
2. 発表標題 Traveling Pinocchio in the variations between images and text, Images, Philosophy, Communication
3. 学会等名 Scuola Superiore Universita' di Bologna (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柴田元幸/野崎歡/松永美穂/沼野恭子/和田忠彦
2. 発表標題 Joy of Translation?
3. 学会等名 東京外国語大学総合文化研究所 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 和田忠彦
2. 発表標題 翻訳という交通路 須賀敦子とタブッキ
3. 学会等名 東京外国語大学総合文化研究所 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satoko ISHIDA
2. 発表標題 Sul corpo di Perela' Riflessioni sull'immagine corporea in Aldo Palazzeschi Palazzeschi (ペレラの身体 アルド・パラッツェスキにおける身 体のイメージ)
3. 学会等名 Seconda giornata di studio e confronto tra Italia e Giappone: ricerche negli archivi letterari italiani (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石田聖子
2. 発表標題 イタリア映画の時代 スペクタクル史劇とネオレアリズモ
3. 学会等名 NUFS映画祭 2019 (WLAC Premium Cinema Talkシリーズ) 名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター、名古屋外国語大学 (招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計15件

1. 著者名 Alejandro Patat (curatore), Hideyuki Doi, Marcello Ciccuto, Carlota Cattermole Ordonez, Juan Varela-Portas de Orduna, Marco Carmello, Celia de Almada Ordonez, Graciela B. Caram Catalano, Lorenzo Bartoli, Davide Toma, Andrea Santurbano, Patricia Peterle, Lucia Watagbin	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Pacini Editore	5. 総ページ数 318
3. 書名 La letteratura italiana nel mondo iberico e latinoamericano. Critica, traduzione, istituzioni	

1. 著者名 和田忠彦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 123
3. 書名 ウンベルト・エーコ 薔薇の名前 笑いは知の限界を暴く	

1. 著者名 和田忠彦、石田聖子、小久保真理江、柴田瑞枝、高田和広、横田さやか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 432
3. 書名 ウンベルト・エーコの世界文明講義	

1. 著者名 土肥 秀行、山手 昌樹	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 348
3. 書名 教養のイタリア近現代史	

1. 著者名 中央大学人文科学研究所編 三枝大修、土肥秀行、真鍋晶子、本田貴久、安保寛尚、南映子、桑田光平、エリス俊子、福嶋伸洋共著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中央大学出版部	5. 総ページ数 300
3. 書名 モダニズムを俯瞰する	

1. 著者名 Angelo Favaro, Hideyuki Doi et al.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Sinestesia	5. 総ページ数 384
3. 書名 Moravia, Pasolini e il conformismo	

1. 著者名 和田 忠彦	4. 発行年 2017年
2. 出版社 書肆山田	5. 総ページ数 283
3. 書名 遠まわりして聴く	

1. 著者名 アントニオ・タブッキ、和田 忠彦	4. 発行年 2017年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 257
3. 書名 とるにたらないちいさないきちがい	

1. 著者名 ウンベルト・エーコ、和田 忠彦、小久保 真理江	4. 発行年 2017年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 256
3. 書名 ウンベルト・エーコの小説講座	

1. 著者名 ウンベルト・エーコ、和田 忠彦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 286
3. 書名 女王ロアーナ、神秘の炎 上	

1. 著者名 ウンベルト・エーコ、和田 忠彦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 281
3. 書名 女王ロアーナ、神秘の炎 下	

1. 著者名 Carla Benedetti, Manuele Gragnolati, Davide Luglio, Hideyuki Doi	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Quodlibet	5. 総ページ数 320
3. 書名 Petrolio venticinque anni dopo	

1. 著者名 Norma Rosario Caballos Aybar, Hideyuki Doi, Iwaya Mutsuki	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Brujas	5. 総ページ数 444
3. 書名 El espectáculo en la lengua y la literatura italianas	

1. 著者名 和田忠彦	4. 発行年 2020年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 116
3. 書名 コッローディ 『ピノッキオの冒険』	

1. 著者名 ウンベルト・エーコ、和田忠彦	4. 発行年 2019年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 336
3. 書名 ウンベルト・エーコの文体練習:完全版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>Studiare l'italiano alla Ritsumeikan University https://www.facebook.com/italiano.ritsumeikan/ NOI SI STA PER IL NOVECENTO https://news.uniroma1.it/21022018_0930 ローマ大学サビエンツァ国際シンポジウム「われわれは20世紀文学とともにある」資料館における研究 https://www.facebook.com/hideyuki.do.330/posts/10216044995707162</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石田 聖子 (Ishida Satoko) (10795230)	名古屋外国語大学・世界教養学部・准教授 (33925)	
研究分担者	巖谷 睦月 (Iwaya Mutsuki) (40749199)	東京藝術大学・大学院美術研究科・研究員 (12606)	
研究分担者	和田 忠彦 (Wada Tadahiko) (50158698)	東京外国語大学・その他部局等・名誉教授 (12603)	